

no.18

CLC からしだね書店便り



6 2022
June

CLC からしだね書店では…

- ① キリスト教書が中心ですが、福祉、心理、精神、哲学、児童書、その他一般の良書もそろえています。
- ② お洒落 でかわいい 雑貨や小物もあります。
- ③ ブックカフェとして、ドリンクやスイーツ、ランチも提供しています。ゆっくり本を読みながら、お過ごしください。
- ④ コーヒーを飲みにきてくださるだけでもけっこうです。
- ⑤ 図書コーナーも併設予定です。ドリンクを片手に、好きな本を手にとってお読みください。
- ⑥ 古書のコーナーもあります。ほりだしものもあります。
- ⑦ 読書会や著者を招いての講演会など、人と人との出会い、つながる「対話」の場を提供します。

読書感想本

『大学の祈り 「見えないものに目を注ぎ」』

青山学院大学宗教主任会 編著
日本キリスト教団出版社 1320円(税込)



今回この本を手にしたのは、私が探し当てたわけでも、偶然私の目に留まったわけでもありません。CLCからだね書店便り2022年6月号の読書感想の原稿を出すよう、店長から依頼されたからです(笑)。

きっかけは受動的、消極的でしたが読み始めるとジワジワその良さが感じられ、構成による読みやすさもあつて、あつという間に読み終わりました。

青山学院大学が、いわゆるミッションスクールであることは知っていましたが、今日に至るまでキリスト教信仰を「建学の精神」に据え、学校運営が行われて来たその土台が「祈り」であると分かりました。



貫してある姿勢は、神に対する感謝と他者に対する敬意と思ひやりの心のように感じました。

私自身も学生時代は運動部に所属し、上手くなるため、勝つために努力をし、対戦相手を敵と呼び、負ければ悔しさに涙したことです。自分の努力や頑張りに目が行きがちで、今思えば、そこには仲間や指導者、家族に対する感謝、ましてや対戦する相手への敬意や、同じような思いで頑張ってきた同世代の選手であるという気持ちは非常に希薄だったなと振り返ります。

青山学院大学の体育部長会において、また大切な大会に臨む壮行会などでの祈りは私自身の心にも刺さるものでした。学生、選手(レギュラーだけでなく控えや裏方に対しても向けられた)へのこれまでの努力や献身への労いと応援、安全と祝福が祈られ、支えてくれた周囲への感謝が祈られます。そして祈りの対象は必ず、対戦する全ての選手や学校、関係者にも向けられており、それら全てを備え、守り、導かれる神(見えないもの、気付いていないもの)への感謝で締めく



学校運営のあらゆる機会に祈られる祈りが、場面ごとに具体的に書かれています。入学式や卒業式などの学校行事、学長選挙・教授会・各種委員会などの会議や式典、パソコンが壊れた時などキャンパスの日常的な出来事、箱根駅伝の壮行会や祝賀会、世界の出来事などのためにも祈られています。

本の帯には青山学院大学陸上部監督の原晋氏がコメントを書いておられます。「戦いを前に心を落ち着かせ…」:「…選手の心が磨かれています。」とありますが、本のサブタイトルにもある「見えないものに目を注ぎ」という姿勢に導く力が「祈り」にはあるように感じます。

この本に紹介されているあらゆる場面での「祈り」に一

くられるのです。

高校生の自分がどう反応したかは正直分かりませんが、今の私はハッとしました。目の前の試合やそれに向けた努力や犠牲にばかり向いていた自分、そして自分、自分…そんな自分の視野を広げ、気付かなかった物事、見えていなかった人や人の気持ちに気付かせてくれます。

ミッションからしだねが災害支援で協働しているオペレーション・ブレッシング・ジャパン(OBJ)のスタッフや一緒に現地入りしたからしだねの職員から聞きました、災害現場で泥かきや瓦礫の片付けなどの支援に入る時、作業の始めと終わりに、その家の方に「祈ってもいいですか?」とことわった上でボランティアが集まって祈られるそうです。その家の方は最初は戸惑っておられても、そのうち自分からその祈りの輪に加われ、涙を流しながら祈りに心を寄せておられる姿に感動するとのことでした。クリスチャンであるかな

いか、宗教心のあるなしを問わず、本気で真剣な祈りの中に身を置くと、その人の中に必ず届く何かがある。祈りにはそんな力があるのだと改めて感じさせてもらえる一冊でした。

その時の状況、大きな苦痛、悲しみ、あるいは大きな喜び、高揚感を前にした時、人は簡単にそれらに飲み込まれてしまいます。その状況しか見えず、自分の事かその周辺にしか気持ちがいかず、意識は内へ内へと向かう気がします。

祈りはそんな心の状態の時、神様の目線に気付かせてくれるように感じます。自分以外の人、周囲の状況や他者の感情（苦しみ・悲しみ・くやしき・思いやり・配慮等）に目を向けるきっかけを与えてくれるように感じます。

「祈り」の力は、自分とは立場も考え方も違う人を受け入れ、想像して思いやり、違いとして認める姿勢に導かれるところにあるのではないかと感じました。



京都のかたすみから見えた風景(4)

かかし



小学生のころ、学校ではやった遊びは「石とり」だった。地面にマスを描き、そのマスの中に石を投げ入れて、ケンパをしながら石を拾って戻ってこれたら、次は一つ向こうのマスまで石を進めることができる。石を目当てのマスに投げ入れる際の微妙なコントロール、大きなマスを跳び越すためのジャンプ力、片足でかがんで石をとるときのパランス感覚など、単純なルールながらけっこう難しい。そのため、低学年は初心者用の「かかし」という石とりから始めるのが常だった。

二等辺三角形の底辺の下にマルを描いたら、かかしの帽子と顔になる。その下に四角を横三つ並べるとかかしの伸ばした腕。その下にいくつかの四角を縦につなげて胴体。たったそれだけの単純な図柄だが、ちゃんとかかしに見えるた。

私の通っていた小学校には、そのころ、知的障害を持つ子ども達のクラスがあった。「いろは」でクラス分けするという明治からの伝統を守っている古い学校で、「い組」と「ろ組」と「は組」は普通学級。知的障がい児学級は1年生か

批判や攻撃、誹謗中傷など、違いを受け入れようとしないう事が目立つ不寛容な現代社会にこそ、祈りが必要とされているのではないかと、自戒を込めて考えさせられました。よろしければ、手に取っていただければ幸いです。

(からしだね職員Y・N)



◆からしだねの「おすすり本スポンサー」システム◆

あなたのイチ押しの本を、
店に置かせていただきます

「この本、ぜひ皆さんに読んでほしい」というあなたのおすすり本。3か月間店頭置いてみませんか？残念ながら売れ残ってしまったら、ご自分で買い取ってお客様にプレゼントという仕組みです。（書店に在庫をためこまず、皆さまの「推薦良書」を広くご紹介いただける。…そうなたらいいなと思っています。）店内配置等については、当店にお任せください。種類によっては、ご希望に沿えない場合もあります。

CLCからしだね書店 店長 坂岡恵

ら6年生まで1クラスで「に組」。先生も生徒も彼らのことを「に組さん」と呼んでいた。

当時、道徳教育のモデル校でもあったためか、先生は「に組さんとも仲良くするように」としよつちゅう私たちに命じ、その一方で悪さをする生徒には、に組さんの教室に机ごと移動するという「罰」を課した。この「罰」は、小学生の頭に「に組さん＝屈辱的」という図式を埋め込んだだけで、私たちはちつとも「に組さん」仲良くなれなかった。

特に二年生のころの私の教室は、に組さんの隣にあったせいで、体の大きなに組の5年生よつちゃんという男の子が、授業開始前の教室にたびたび侵入してくるのが怖かった。私たちはよつちゃんが教室の戸を開けて顔をのぞかせただけで悲鳴をあげて、まるで小魚の群れのように、ひとかたまりになって逃げ惑った。興奮したよつちゃんは「ウオーッ」と大声をあげて私たちを追いかけまわし、私たちは泣きながら死にものぐるいで逃げる。運悪くつかまつてしまった子が髪の毛をつかまれて引きずり倒されるのは恐怖でしかなかった。やがて先生がやって来て、よつちや



んを連れ出す。そんな繰り返しは、ますます私たちをに組さんから遠ざけてしまった。

そうこうするうちに、町のはずれに立派な養護学校ができ、に組さんの多くはそちらに移って行った。私が入学した当時、十数人いたに組さんも、六年生になるころには、わずか一人になってしまい、それでもに組さんは学校の中にひっそりと存在し続けていた。すっかり勢いを失ったに組さんにたった一人残ったのは、四年生のたけし君。彼は休憩時間になると、水飲み場にもたれかかって、皆が遊ぶのをながめているおとなしい子だった。

ある日の昼休み、私は校庭の隅の観察池の前で、ぴよんぴよん飛び跳ねているたけし君を見かけた。たけし君は「かし」で遊んでいた。低学年の子らが遊びあきて残っていたかかしを見つけて、ちよっとだけ自分もやってみたくなったのだらう。

かかしの上で不器用に跳びはねるたけし君をぼんやりながめながら、私は、ああ、たけし君はあんなふうにして遊ぶんだ...と思った。晴れ渡った空、校庭に響く笑い声、ひだまりの中の陽気なざわめき、そんな風景から切り離された観察池の前のかかしは、たけし君を遠くに連れて行って



しまいそうな気がした。もともと遠くにいたたけし君やよっちゃんや、養護学校に行ってしまったたくさんの子ども達を、もっともっと遠くに連れて行ってしまいそうな気がした。

石を上手に拾い上げたとき、ふとたけし君が笑った。遠慮がちに笑った。

私はたけし君が笑うのを、そのとき初めて見たような気がする。急にかなしくなった。

置き去りにされたかかしを相手に一人遊びを続けるたけし君がかなしかったのか、たけし君をかかしと一緒にさびしい空間に閉じ込めてしまった学校がかなしかったのか、たけし君ともよっちゃんとも仲良くなれない自分がかんしかったのか。

どれも合っているようで、少しだけ違う気がする。

あとき、たけし君のかかしは、たけし君だけのだじじなだじじな空間の中で、確かにそこにあった。その宝物のような、さびしく澄んだ風景を、私は一生忘れない。



京都市東部障害者地域生活支援センター・からしだねセンター主任
武山 世里子（精神保健福祉士・相談支援専門員）

からしだね館のひとこま —こころ病む人の支援—

今回の主人公はスモークーさんです。50代後半の男性で、高校を中退してからはほとんど定職につかず、同居の親に身の回りの事はすべてお任せ。たばこをぶかぶか吸いながら、気ままな暮らしを送ってきました。スモークーさんは、今、そんな生活を取り返して、「若い頃は楽で良かったなあ。何もせずに良かったし。親がうるさいのをスルーするだけで良かったしなあ。」と懐かしんでいます。

セピア色の魔術師・スモークーさん

スモークーさんについて

スモークーさんが30歳になった頃です。自宅でもしなにどころか、家族の行動を極度に制限するようになりました。家族が掃除機や洗濯機を使う時に出る「音」を嫌い、家電を使うことを禁止しました。強行すると大きな声を出し、暴れます。それだけでなく、風呂にも入らず、着替えもせず、部屋の中はごみで荒れ放題。「隣人の家に爆弾が落ちた」洗濯機の中に盗聴器がしかけられている」と家族に執拗に訴えたり、市長宛に「核爆弾が落とされる。処理してほしい」と手紙を送り続けたり…。病気の症状が日に日にひどくなっていきました。

「喪失」の中のスモークーさんの暮らし

彼の周囲は危険だらけで、どれだけ訴えても、家族も、市長さんも何もしてくれない…。と他者や社会への信頼を喪っていました。少しでも楽になれるよう、病院に行くことを薦めても、身のまわりのことのお手伝いをしようとしても、固く拒否。誰かの提案に耳を貸すことはなく、かたくなに自分の世界に閉じこもっているようにしか見えません。

そして自宅で大声を出して暴れ、危険を感じた父親が警察に通報し、入院となりました。

お薬で治療をすると、それなりに落ち着きを取り戻し、退院後の生活を検討することになりました。

以前のように家族と一緒に住むことは、本人にも、家

族にも良いことではないとの判断で、スモーキーさんは父方の祖母がかつて住んでいた家に一人暮らしをするようになりました。

スモーキーさんが一人暮らしを始めてすぐに、お父さんが亡くなってしまいました。しばらくして、血の繋がっていないお母さんは、親戚のいる他府県に引っ越してしまいました。父親亡きあとは、スモーキーさんの面倒は絶対みせん！と言い残して。父親の遺産で何とか働かなくても生活ができたので、彼はそれほど困った様子もなく、気ままにたばこを吸いながら、家族の残してくれた家に暮らし続けました。両親と同居していた時から変わったことと言えば、コンビニでたばこを買うついでに食事やお菓子を買ようになったぐらいです。はた目からは、小うるさい親がいなくて、より一層自由な生活をおう歌しているようでした。

20年以上の月日がたちました。家はごみが散乱し、ネズミやゴキブリなど、ありとあらゆる生き物が追いかけてくるような状態になりました。それでもスモーキーさんはマイペースな一人暮らしを送っていました。しかし、その生活に変化が訪れました。

ごみが散乱した部屋の中を見て「自分がいつの時代に来たのかな」と戸惑いました。すべてがたばこの煙でセピア色なのです。3か月前の処方薬のふくもセピア色でした。

ヘルパーさんと訪問看護の支援を受けながら、煙だらけの自宅での生活が始まりました。自分の好きなことだけをしてきたスモーキーさんに、掃除やお薬の促しをする支援者は「うっとうしい」人たちでした。外からの訪問者はみな、最初に窓を開けます。近隣に見張られていたり、何かを仕掛けられている妄想のあるスモーキーさんには受け入れ難いことでした。ことあるごとに支援の「お断り」の連絡が入りましたが、お休みを挟みながら、完全に支援が切れないようにしました。スモーキーさんのペースに寄り添って、ヘルパーさんや訪問看護師さんが入ってくれるようになりました。ヘルパーさんは、具だくさんのラーメン、あつあつのカレー、とろろあんのかかった中華丼を作ってくれました。訪問看護師さんは、訪問の時に、車に彼を乗せ、桜見物や買い物に連れて行ってくれました。

スモーキーライフに経済的危機！

そんな時に訪問看護師さんからからだだねに連絡が入りました。「スモーキーさんが口ト6を買いまくって生活



気ままな暮らしを「喪失」したスモーキーさん

耐えきれないような爆発音が頭の中に響き渡るようになったのです。「失神してしばらく動けない」ほどの音量です。毎日何度かこの爆音が鳴り響くようになり、とうとう耐えられなくなったスモーキーさんは、自分で救急車を呼び、再び入院になりました。

病院では、中断していたお薬を再開したことで、「音」は聞こえるけれど、失神するレベルではなくなりました。退院してからの生活が、ゴミだらけの不衛生な生活に戻らないように、そして、再びお薬を中断して病状が悪化しないように、ヘルパーさんと訪問看護師さんを調整する依頼がからだねセンターに入りました。

セピア色の世界 スモーキーライフ

退院したスモーキーさんの家に入って、チャイムを鳴らしました。扉を開けてくれたその隙間、たばこの煙がモクモクと出てきました。煙の中から登場したスモーキーさんは、歌手がステージに出てくるみたいでした。

費がありません」とのこと。

訪問して状況を伺いました。「父親の遺産がなくなってきたので、稼がない」と思ったようです。口ト6で稼がなくても、計画的に出費できるようなお手伝いを提案しましたが、かたくなに「他人にお金のことを任せるのは嫌だ。信用できない」と。どれだけ説明しても首をたてに振ってくれません。その間も宝くじや口ト6を万単位で購入します。

本当にこんな使い方をしているのは、お金が底をついてしまう…。

そんな時に、スモーキーさんから、珍しく電話が入りました。「武山さん、もう大丈夫。お金のことは解決した」というのです。その理由を尋ねると、「口ト6の当選番号を予測できるすごい機械買ったで」念のために2種類の予想機を購入し、1万円くらい支払ったとのことでした。

うわあ!!! スモーキーさんの生活はどうなるのでしょうか!!!

続きは7月号で!!

からだね館では、障害のある方の生活全般の相談を受けたり、就労支援をしたりしています。

障害のこと、福祉のことで「こんなことを聞いてみたい」ということがあれば、ぜひ、CLCからしだね書店 (clc@karashidane.or.jp) までお知らせください。

What's New

《お知らせ・4》

◆聖化の再発見 上・下巻

各2200円(税込)

英国チザレン学校
大頭先生と焚き火を囲む仲間たち 著 訳

大頭先生は、CLCからしだね書店もお世話になっている牧師さんです。少数限定出版ですので、お早めに!!

《お知らせ・5》

◆福音讃美歌USBメモ りのおしらせ

●「教会福音讃美歌」全506曲、「あたらしい歌2」全20曲、計526曲の音源データをクリスチャン演奏家による奏楽でUSBメモリに収録。

●音源はオルガン・ピアノ、一部ギターなどのバージョンもあります。

●賛美・伴奏の練習やBGMなどとして...どこでも気軽に楽曲に親しめます。

●刊行10周年記念企画として、定価39,600円(税込)を発売記念価格の36,300円(税込)でお求めになれます。



お願い

日本語以外の古新聞をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ご寄贈いただけませんか? お買い上げの本やグッズを入れるちょっとおもしろいエコバッグを作ります。(お問い合わせ先 → clc@karashidane.or.jp 電話 075-574-1001 fax 075-574-0025)

感謝とお願い

いつもからしだね館のひとこま「こころ病む人の「からしだね館のひとこま」担当 武山より支援」をお読みくださってありがとうございます。続けている中で、「どうなるのかハラハラする」「続き教えて」という嬉しいコメントを頂くことがあります。読んでくださって感謝でいっぱいになります。

この連載は、目の前の人が経験した「喪失」とそこから見える「希望」をお届けしています。私たちはものすごい「喪失」に打ちのめされたり、あきらめそうになったりします。それでも、「喪失」を経験している人の「人生」はあきらめていないのです。続きがあるのです。そこに「希望」を見ることができるのです。

さて、ここでみなさまにお願いがあります。

みなさまの「喪失」と「希望」のストーリーをシェアしてもらえませんか。発信だけの一方通行ではなく、少しみなさまのストーリーもお聞きしたくなりました。もしそんなストーリーをお持ちの方がいらっしゃいましたら、CLCからしだね書店に7月15日までにお知らせくださるととても嬉しいです。楽しみにしています。今後とも、からしだね館のひとこまをよろしくお願いいたします。

《お知らせ・1》

◆教会や保育園、幼稚園等で、定期刊行物や新刊書、用品等のご注文がある程度数の数、まとめて頂きましたら月1回、無料の定期便でお届けします。

◆お近くにキリスト教書店が無い場合など、ご希望により、新刊書や用品(グッズ)の訪問販売を検討させていただきます。

◆再版発行のリクエストをお寄せください。絶版した良書で、再版してほしいものがありましたら、お知らせください。ある程度リクエストがまとまりましたら、出版社に情報提供したいと思います。

《お知らせ・2》

◆取次店から本が入荷されるのは、水曜日と金曜日の週2回です。お客様からの注文のタイミングや、取次店にも在庫がない場合など、お取り寄せに1週間以上かかってしまうこともあり、たいへん心苦しく思いますが、少し余裕をもってご注文いただくと助かります。お急ぎの場合はお知らせください。なるべく対処したいと存じます。キリスト教書店が町から消滅しないために、あえて書店に申し込んでくださっている皆様のお気持ちとお祈りに支えられていますことを、心より感謝いたします。

《お知らせ・3》

◆HPの古書のコーナーをご利用ください

「古書一覧リストページから検索できます」

絶版の本もあります。おめあての本が見つからず、ぜひご来店ください(念のため売れてしまっていないか電話かメールでご確認いただけたらと思います)

皆さまからご寄贈いただいた古本・古書は、からしだねワークスで働く利用者や職員、ボランティアさんで、整理とクリーニング、値付け、登録などを分担して行っています。

中には、絶版になった貴重な本もあり、「あ、こんなところに、欲しかった本が...!」と、思わぬお宝を発見するお客様もおられます。

ご寄贈くださった方も、からしだねワークスで働く利用者さんたちの暮らしが支えられ、ふさわしい買い手のもとに本が届きますように、というお気持ちだと思いますので、Amazonで高値がついている本も、定価以上の値はつけません。



古書一覧リストページ

<https://karashidane.or.jp/project/job-assistance/clc-books/usedbook/usedbook-list>

まだ値段がついていない本もありますが、おおむね、文庫本は100円、他の本も100円~定価の7割程度で買い上げいただいております。(中には2円50銭という定価の本もあつたりしますが、それはまた別の話)

献本について お知らせ

たいへん申し訳ございませんが、
送料をご負担いただけると
ありがたいです。
（受付できないものもありますので
事前にお知らせください）

【献本をお願いしたい本の種類】

- 1 キリスト教書、キリスト教に関連した本（多少、書き込み等があっても、大丈夫です）
- 2 哲学、心理学等、人の生き方に関する本
- 3 社会の中で起きている問題を扱った本
- 4 暮らし（料理、健康、経済等）にかかわる本
- 5 小説（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）
- 6 漫画（人の暮らし、尊厳、生き方を表現したものであればジャンルを問いません）

【本の送り先】

住所：〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館

宛先：CLC からしだね書店 献本係 電話：075-574-1001 FAX075-574-0025

Mail：clc@karashidane.or.jp

【本と一緒にいただきたいもの】

以下の内容を記入したメモ

①献本者のお名前②ご住所③お電話番号④メールアドレス⑤さしつかえなければ、献本者の簡単なプロフィールをお願いします。⑥献本くださった方のお名前を書店だよりにご紹介させていただきたいと思います。お名前の掲載は困るという方は、お知らせください。

【古本の売上を含む CLC からしだね書店の収益は、すべて、書店で働く障がい者の工賃になります】

【献本感謝】

高橋正則様、佐野弘子様、河原雅子様、坂岡大路様、浜岡典子様、北村修一様、洛陽パプテスト教会様、
宮崎佳文様、和田耕作様、竹川満里子様、入江尚志様、伊藤順子様、岩田和子様、石川了様、匿名様（順不同）

収益は利用者さんたちの工賃になります。古本・古書の5月の収益は125,854円でした。
ご寄贈くださった皆様、ご購入くださった皆様、本当にありがとうございます。

編集後記

◆コロナもウクライナの戦争も終わらないまま6月を迎え、あちこちが観光客でにぎやかになってきました。書店では、無事1周年記念イベントも終わり、本の管理にとって湿気とのたたかい、梅雨を迎えようとしています。体調を崩しやすい季節になります。どうぞ皆様、ご自愛くださいませ。【店長】

編集・発行：社会福祉法人ミッションからしだね
就労継続支援A・B型事業所からしだねワークス
からしだね書店&カフェ・トライアングル
〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75 からしだね館
書店電話番号 075-574-1001 FAX 075-574-0025
書店メール clc@karashidane.or.jp

CLCからしだね書店だよりの
バックナンバーはこちらから

